

科目担当者氏名		科目担当者連絡先 (メールアドレス)	
(ふりがな)	いわぶち あきこ 岩淵 亜希子		
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな)	いわぶち あきこ 岩淵 亜希子	追手門学院大学	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習 I B	OTMa-080801-2	25	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：学生が果たした役割：学内調査という所与の条件のもとでの仮説立案・調査票作成、エディティングおよびデータ入力、集計票の作成、分析、執筆。感想：本実習では、実習全体の調査枠組みのもとで、学生が自らの関心を互いに表明し、それを活かしてグループごとのテーマと仮説をまとめあげ、それに沿った調査を行えることを重視しているが、グループワークのマネジメントには困難が多い。

II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：2クラス計25名で計6テーマを設定し1つの調査票を作成した。(複数のテーマにわたる関心を持つ場合は、複数のグループに所属した場合もある。)以下に「大学生活」グループの概要について述べる。

2. 調査の内容/概要：大学生活の満足度や出席率が何によって異なるのか、またそれが男女でどのように異なるのか調査した。

3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：母集団：追手門学院大学の社会学部生1~3年生、サンプリング：有意抽出 (1~3年ゼミを通じた配布・回収)

4. 主な調査項目：大学生活の満足度、大学での出席率、ノートの貸し借りなどの人間関係、大学生活の各場面をどのような友人と過ごしているか など

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集 (現地調査) の方法：1~3年生ゼミの担当教員に対し、受講生自らが調査依頼の交渉を行った。日程調整のうえ、受講生が分担して調査員となり、ゼミを訪問しての調査説明、配布、回収を行った。自記式。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：調査時期：2008年6月下旬~7月上旬、調査地：追手門学院大学内、調査員の数：学生計50名 (うちBクラス25名)

7. 収集したデータの量と質への評価 (量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)：総配布数354、回収数：318、有効回収数：同左、配布数に対する有効回収率：89.8%

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：SPSSを用いた統計解析 (クロス表分析とカイ2乗検定、平均値の差の検定、相関分析が中心)

9. 調査の成果 (調査から得られた主な知見など)：①内向的な性格の学生ほど、友人数が少なく、また大学生活に満足できていない傾向がある、②男性の方が一人を好み、女性は大勢の固定した友人と行動する傾向にあるが、そうした行動パターンの違いによって大学生活への満足度が大きく左右されることはない、③出席率が低い人は、異性の友人が多い など

10. 報告書刊行の予定と概要：2009年3月に『追手門学院大学社会学部 社会調査実習報告書 「2008年度 大学生の社会意識に関するアンケート」 調査報告書——追手門学院大学 学部生の暮らしと意識』刊行。大学生活に関する論文5本を掲載。

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の*印の箇所には数字を(*/*)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3と)ご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。

科目担当者氏名		科目担当者連絡先 (メールアドレス)
(ふりがな) いわぶち あきこ 岩淵 亜希子		
連絡責任者氏名		科目設置機関名
(ふりがな) いわぶち あきこ 岩淵 亜希子		追手門学院大学
授業科目名	科目認定番号	受講者数
社会調査実習 I B	OTMa-080801-2	25

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：学生が果たした役割：学内調査という所与の条件のもとでの仮説立案・調査票作成、エディティングおよびデータ入力、集計票の作成、分析、執筆。感想：本実習では、実習全体の調査枠組みのもとで、学生が自らの関心を互いに表明し、それを活かしてグループごとのテーマと仮説をまとめあげ、それに沿った調査を行えることを重視しているが、グループワークのマネジメントには困難が多い。

II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：2クラス計25名で計6テーマを設定し1つの調査票を作成した。(複数のテーマにわたる関心を持つ場合は、複数のグループに所属した場合もある。) 以下に「親子」グループの概要について述べる。(親子関係グループはBクラスのみ)
2. 調査の内容/概要：親が子に与える影響について明らかにするため、母親との関係性は男女でどのように異なるのか、親子の金銭関係の類似性、両親の仲の良さが子に与える影響などを調査した。
3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：母集団：追手門学院大学の社会学部生1~3年生、サンプリング：有意抽出 (1~3年ゼミを通じた配布・回収)
4. 主な調査項目：親から子へのしつけについて、母親との関係性、本人・母・父の金銭に対する態度・考え方など

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集 (現地調査) の方法：1~3年生ゼミの担当教員に対し、受講生自らが調査依頼の交渉を行った。日程調整のうえ、受講生が分担して調査員となり、ゼミを訪問しての調査説明、配布、回収を行った。自記式。
6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：調査時期：2008年6月下旬~7月上旬、調査地：追手門学院大学内、調査員の数：学生計50名 (うちAクラス25名)
7. 収集したデータの量と質への評価 (量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)：総配布数354、回収数：318、有効回収数：同左、配布数に対する有効回収率：89.8%

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：SPSSを用いた統計解析 (クロス表分析とカイ2乗検定、平均値の差の検定、相関分析が中心)
9. 調査の成果 (調査から得られた主な知見など)：①行動の面では、男性より女性の方が母親と親密であるが、心理面での親密さでは男女間で大きな差はみられない。②母親との関係が本人の性格や人間関係に影響を与えており、母親と親密な人ほど、社交性に富んでいる、友人に対して相手の話を受け止めた上で自分の意見を言うなどの傾向が見られた。ほか
10. 報告書刊行の予定と概要：2009年3月に『追手門学院大学社会学部 社会調査実習報告書 「2008年度 大学生の社会意識に関するアンケート」 調査報告書——追手門学院大学 学部生の暮らしと意識』刊行。親子関係に関する論文9本を掲載。

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の*印の箇所には数字を(「*/*」には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3と)ご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。

科目担当者氏名		科目担当者連絡先 (メールアドレス)	
(ふりがな)	いわぶち あきこ 岩淵 亜希子		
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな)	いわぶち あきこ 岩淵 亜希子	追手門学院大学	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習 I B	OTMa-080801-2	25	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：学生が果たした役割：学内調査という所与の条件のもとでの仮説立案・調査票作成、エディティングおよびデータ入力、集計票の作成、分析、執筆。感想：本実習では、実習全体の調査枠組みのもとで、学生が自らの関心を互いに表明し、それを活かしてグループごとのテーマと仮説をまとめあげ、それに沿った調査を行えることを重視しているが、グループワークのマネジメントには困難が多い。

II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：2クラス計25名で計6テーマを設定し1つの調査票を作成した。(複数のテーマにわたる関心を持つ場合は、複数のグループに所属した場合もある。)以下に「血液型」グループの概要について述べる。(血液型グループはBクラスのみ)
2. 調査の内容/概要：血液型性格診断の検証、ならびに血液型性格診断を信じるという意識について分析を行った。
3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：母集団：追手門学院大学の社会学部生1~3年生、サンプリング：有意抽出(1~3年ゼミを通じた配布・回収)
4. 主な調査項目：血液型性格診断への意識、血液型、性格の自己評価 など

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集 (現地調査) の方法：1~3年生ゼミの担当教員に対し、受講生自らが調査依頼の交渉を行った。日程調整のうえ、受講生が分担して調査員となり、ゼミを訪問しての調査説明、配布、回収を行った。自記式。
6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：調査時期：2008年6月下旬~7月上旬、調査地：追手門学院大学内、調査員の数：学生計50名 (うちAクラス25名)
7. 収集したデータの量と質への評価 (量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)：総配布数354、回収数：318、有効回収数：同左、配布数に対する有効回収率：89.8%

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：SPSSを用いた統計解析 (クロス表分析とカイ2乗検定、平均値の差の検定、相関分析が中心)
9. 調査の成果 (調査から得られた主な知見など)：①血液型と本人の性格には、血液型性格診断が指摘するような対応関係はみられない。②社交的であるといわれている血液型の人が、実際に良好な友人関係を築けているとはいえない。③友達を束縛したがるような自己中心的な性格の人、また自分の意見がなく人の頼みを断れないタイプの人に、血液型性格診断を信じる傾向がある。ほか
10. 報告書刊行の予定と概要：2009年3月に『追手門学院大学社会学部 社会調査実習報告書 「2008年度 大学生の社会意識に関するアンケート」 調査報告書——追手門学院大学 学部生の暮らしと意識』刊行。血液型に関する論文8本を掲載。

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の*印の箇所には数字を(「*/*」には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3と)ご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。